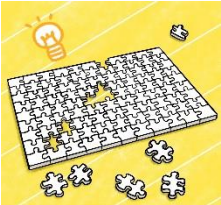
トレンドを斬る!

「宇宙パズル」は宇宙飛行士選抜試験に使われたホワイトパズルをモチーフにした、真っ白なジグゾーパズルです。99 ピースでも 2 時間を要するほど難しく、ディスカバリーに搭乗した山崎直子さんが取り組んだ 300 ピースはさらに難易度が上がります。驚くのはその販売数で、販売開始から 10 年で 22 万個も売れています。何の変哲もない白いパズルに、宇宙飛行士と同様の忍耐力を鍛えるという醍醐味（だいごみ）を与えた、ストーリーで売るお手本のような商品です。



365日が楽しくてたまらない!「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【迷ったら「変化」を選ぶ】

帝国データバンクによれば、今年 100 周年を迎える日本企業は 1065 社。「100 年企業」は約 3 万社（日経 BP コンサルティング調査／2020 年 3 月時点）にものぼるそうです。世界の「100 年企業」が約 8 万社なので、日本は世界でもまれに見る長寿企業大国なのです。振り返ってみれば、100 年前は第一次世界大戦後の不況が続き、関東大震災があり、また戦争があり、高度経済成長期を経験してオイルショックが 2 回あり、その後バブル経済や IT バブルがはじけ、リーマンショック、阪神淡路大震災、東日本大震災、そしてコロナが世の中を大きく変えました。こんな苦難な時代を乗り越えてきた「100 年企業」には、キユーピー、ハウス食品、清水建設、竹中工務店、小学館、任天堂、グリコ、旭化成など、誰もが知っている有名企業がずらりと並びます。2011 年版中小企業白書によると、創業 5 年以内に廃業する率は約 2 割。そんな状況の中、100 年以上の歴史を重ね、今なお経済をリードしている企業には 3 つの共通点があるようです。「変化をいとわない」「社員を大事にする」「地域貢献」。中でも注目したいのが「変化をいとわない」です。物事がある程度長く続くと、過去の成功体験やしがらみなどに縛られて大胆な選択ができなくなってきます。すると「ここまで続けてきたからやめるわけにはいかない」という気持ちが大きくなり、継続していくことが目的になってしまいがちです。しかし現状維持は衰退の第一歩。長く続けていくためには、今までとは違う選択をすることが継続への活路になることもあります。革新的なことをすると批判も受けますが、常識に捉われずにチャレンジし続けた結果の「100 年企業」なのでしょう。日本のコンビニの父、鈴木敏文さんは以前「人間は一方で何かにしがみつきながら、もう一方で新しいことに挑戦することはできません。自分では一歩踏み出したつもりでも、思うように前に進まない人は、無意識のうちに何かにしがみついているのかもしれません」と言っていました。自分は何かにしがみついていないだろうか。迷ったら変化を選ぶ大胆さと勇気を持ちたいものです。

トナリの本棚

【苦しかったときの話をしようか】

経営危機にあった USJ を劇的に復活させた森岡毅が、娘に宛てた手紙を本にしたビジネス書。自分の強みを磨いてブランディングする方法を平易な言葉で書いています。行動を起こすきっかけになる一冊です。

船越税理士法人
〒620-0054
京都府福知山市末広町 1-1-1　中川ビル 3 階
TEL：0773-22-3708　FAX：0773-22-7343
http://www.f-office301.com
E-mail：info@f-office301.com
皆様のご感想をお待ちしております☺☺☺☺☺☺☺